

多摩のかげはし

February
2
2013

多摩交流センターだより No.112 平成25年2月1日発行(隔月刊)



「ひな祭り」(楽しいパッチワークキルト会員作品)

今月の内容

体験型一般公開講座報告 調	2	第16回多摩の歴史講座 終了報告 共	9
学生ボランティア団体紹介 他	4	TAMAのイベント情報 助	10
多摩の魅力発見! 他	6	○2・3月の助成等事業紹介	
○大多摩ハム		講座・講義案内	11
○野崎酒造		○多摩発・遠隔生涯学習講座 共	
○磯沼ミルクファーム		○東京雑学大学講義 他	
東京TAMAタウン誌会 共同企画記事 共	8	多摩交流センター登録団体の会員募集案内 会	12
○多摩をつなぐ「武蔵野まごころ連」		編集後記	12

掲載記事の内容

調 東京市町村自治調査会にかかる記事 **共** 共催事業等にかかる記事 **助** 助成事業等にかかる記事
会 会議室登録団体にかかる記事 **他** その他



体験型 一般公開講座

みどり東京・温暖化防止プロジェクトでは、都民を対象に東京の自然を再発見し、またエネルギーと電気について学ぶことで地球温暖化防止や都民の自然保護に対する意識を養い、人々の行動が環境に配慮したものとなるように啓発するとともに、都民同士の交流を促すことを目的に「体験型一般公開講座」を実施しました。

■ 講座の実施内容



●電力中央研究所講義



●東芝科学館見学(超伝導の実験)

**エネルギーと電気を学ぶ
施設見学バスツアー**

- ・日 程 ①9月19日 ②9月25日
- ・参加者 ①23名 ②22名

当講座では、午前中に狛江市の電力中央研究所を訪れ、研究施設の見学を行いました。また再生可能エネルギーについて、「自然エネルギーの活用」をテーマに、太陽光発電や風力発電など再生可能エネルギーの技術や、多くのエネルギーを取得するために配慮すべき点などについて講義を受けました。午後は神奈川県川崎市の東芝科学館で、LED照明の特性や省エネ効果などをテーマにクイズ形式で行われた講演を聞きました。また実際に体験しながら「電気」「環境」「エネルギー」などについて学ぶことができる館内の展示を見学しました。

奥多摩町森林セラピー

- ・日 程 10月18日
- ・参加者 22名



●森林ヨガ体験



●そば打ち体験

当講座では、「山のふるさと村」を起点に、血圧・アミラーゼの測定などの健康チェックをした後、森林ヨガ(雨天のため室内)、そば打ち体験、奥多摩湖を眺めながらのガイドウォークなど充実したプログラムにより、森林セラピーの効用を体感しました。



●払沢の滝



●都民の森でのガイドウォーク(森林館)

檜原村森林セラピー

- ・日 程 ①10月26日 ②10月31日
- ・参加者 ①25名 ②20名

当講座では、払沢の滝を散策し、都民の森で地産物をふんだんに使ったセラピー食の昼食後、1時間程セラピーロード「大滝の路」を歩きました。滝と森林を満喫できる、全講座の中でも参加者の満足度が高い講座でした。

日の出山荘で自然体験

- ・日程 11月6日
- ・参加者 25名



●竹の苗木ポットづくり



●日の出山荘青雲堂 お抹茶体験

当講座では、午前中、雨天により現地での竹林伐採は中止になったものの、東京都森林組合で森林環境について学び、竹を利用した苗木ポットづくりを体験しました。午後は、日の出山荘に移動し、書院や庭園などの見学と、青雲堂でのお抹茶の体験をしました。



●小山内裏公園



●片所谷戸

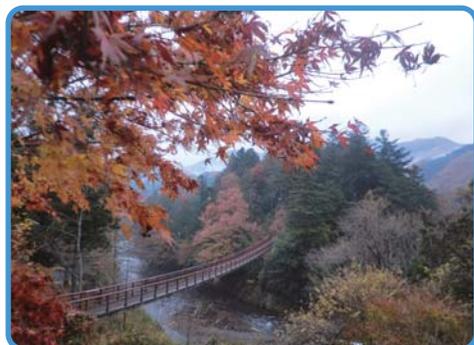
町田市 フットパスガイドウォーク

- ・日程 11月13日
- ・参加者 70名

当講座では、「まちだの尾根を歩く」と題して、町田市の歴史や地理についてボランティアガイドによる説明を聞きながら、京王相模原線多摩境駅から、都立小山内裏公園、片所谷戸、尾根緑道、箭幹八幡宮を経てJR横浜線淵野辺駅までの約9kmを歩きました。

あきる野市 郷土の恵みの森づくり体験

- ・日程 11月30日
- ・参加者 20名



●秋川溪谷 石舟橋



●植樹体験を終えて

当講座では、午前中、森林レンジャーあきる野のガイドで城山に登り、里山の森林環境の様子などを観察しながら秋川溪谷瀬音の湯まで下りました。午後は、瀬音の湯の敷地内で森林レンジャーから景観整備と植樹についてレクチャーを受け、森づくり体験をしました。

講座全体を通して

今回の6講座については、いずれも定員以上の応募があり、都民の方々の関心の高さがうかがえました。これらの講座を通じ、エネルギー問題について考え、実際に行動に移すきっかけづくりや、東京の各地域の自然のすばらしさを体験・再発見することにつながったのではないのでしょうか。

参加者アンケートの結果、「大変良かった・良かった」との感想が97%、「また是非参加したい・参加したい」との感想が99%を占め、「自然エネルギーの話を聞いて良かった」「貴重な体験ができた」「無理のないプログラムで快適だった」「ガイドさんの説明がとても良かった」といった声も寄せられるなど、本講座は大変好評のうちに終了となりました。

学生ボランティア団体紹介

～学生による多摩のまちづくり～

他

少子・高齢化が進展するなか、これからの地域社会の担い手として若者の力が注目されています。そのなかでも多くの大学等が立地する多摩地域では、学生による地域課題の解決や地域活性化のための活動が盛んに行われています。活動分野も福祉、環境、防犯等多岐にわたり、学生だからこそ持ちえる行動力や発想力が活動のスケールを広げ、地域に貢献しています。

そのなかでも今回は、大学のボランティアセンターが旗振り役となって、多摩地域のまちづくりに貢献する活動を行っている明星大学の5つの学生ボランティア団体を紹介します。

●スマイリー

スマイリーは、障がい理解と学生交流を大きなテーマとして活動しているボランティアサークルです。活動は毎回学生が一から作り上げ、子どもたちが日頃学校でたまったストレスを少しでも発散できるように取り組んでいます。主な活動内容は、基本的には大学校内を使用し、おにごっこなどを子どもみんなが楽しめるルールに作り変えたり、ペイントや昔の遊びなどの工作活動のほか、年に数回はお出かけ企画と称し、動物園に行き子どもたちと一緒に過ごすなど充実した活動を行っています。

スマイリーの活動では基本的に子ども一人に対し学生一人というスタンスをとっています。その理由は、子どもたちの安全を配慮しながら、少しでも子どもを自由に遊ばせてあげるためです。ミーティングではできる限り起こりうる事態を予測し、対処法などを話し合ったりしています。活動には保護者にも毎回足を運んでもらい、万が一の事態にも備えています。

多摩地域で活動している身であるかぎり、子どもたちの笑顔、学生の笑顔からまちが活気づいていけばと願っています。



学生も笑顔で活動

●大道芸団マアム

大道芸団マアムは、現3年生が1年生の時に設立したボランティアサークルです。「大道芸」とは、不思議な芸や動きをして、見ている人を驚かせたり楽しませたりするエンターテインメントで、「ジャグリング」とも言います。代表的なものは、3つのボールを使ったパフマンズ、中国ゴマ「ディアボロ」を使ったパフマンズ、大きなナイフを投げるパフマンズなどがあります。

大道芸団マアムは、多摩市やその周辺地域で開催されるイベントへの参加、老人ホーム、児童館への訪問など、様々な場所で大道芸を披露し、その場を盛り上げることによって、活気のある明るいまちにしていこうことを目標としています。現在は、近隣地域団体からの定期的な依頼のほか、本学のサークルや他の市区町村からも依頼が届くようになり、月に1～4回パフマンズを行っています。

パフマンズは、パフォーマーが1人で演技をしても、なかなかその場は盛り上がりません。観客の拍手や驚きの声、歓声など、演技を見ている観客と一緒に盛り上がり、楽しい時間を過ごすことができるといふことにやりがいを感じながら、日々精進しています。



イベントでジャグリング披露

明星大学ボランティアセンター

○設立 2008年5月

○主な業務 ①ボランティア募集の情報提供

②ボランティアに関する相談受付

③ボランティア活動をしている学生の支援

④ボランティアに関する講座等の開催

⑤地域との連携

○連絡先 ☎ 042-591-6231

○所在地 日野市程久保2-1-1

●MCAT(エムキャット)



安全安心まちづくり運動に参加

MCATはMeisei Community Action Teamの略で、明星大学の学生有志で構成された地域のために活動する団体です。主に、地元日野警察署と日野市役所が推進している「安全安心まちづくり運動－防犯・防災・交通安全－」に協力して地域貢献活動を行っています。また、自主的な活動としては、授業の空き時間を利用して週3回大学近隣住宅街の見回りと清掃、小学生の下校時の声かけなどを行っています。

MCATの活動の特徴は、市の行政機関と密着しているため活動が多岐に渡っていることです。今年度は市内で開催されたイベントの多くに参加しました。これからも地域のために若い力を精一杯発揮して行きたいと思っています。

●めばえの会

めばえの会は、障がいを抱えた方たちと一緒に、お出かけ、料理、スポーツ、レクリエーションなどを通して楽しい時間を過ごすことを目的に、「プリズムクラブ」「竹ん子」「訪問学級」の三つの部類に分かれて活動を行っています。

「プリズムクラブ」は知的ハンディキャップを持つ方とスポーツ、カラオケ、料理を楽しむことを通して共に楽しみながら交流を深めていく活動です。「竹ん子」は正式名称を「府中市肢体不自由児 子供会 竹ん子」といい、普段から車いすを利用している方たちと動物園やショッピングセンターなどに出かけて行ったり、一緒に料理をすることを通して触れ合う活動です。活動の中で車いすの体験ができるほか、食事介助などから学ぶことが多く、日々勉強になります。「訪問学級」は、「日野市障害者問題を考える会・障害者訪問学級」からの紹介で障がいを抱えた方の自宅へ訪問し、生涯学習のお手伝いをしています。また、日野市社会福祉協議会及び近隣の社会福祉施設のボランティア活動などにも参加しています。

今後も、一つ一つの活動を「みんなが楽しめる、温かい雰囲気」にし、それを維持していくことを目標に活動していきたいと考えています。



昭和記念公園へ遠足

●レインボーサイン

Rainbow Signは明星大学唯一の手話サークルで、創設者の「聴覚障がい児・者の方々と楽しくコミュニケーションをとりたい!」という思いから3年前に立ち上がりました。

Rainbow Signは日常会話を手話で表現できる・日常的に手話が使えらることを目的に、校内での手話学習やろう学校でのクラブ活動補助などを通して手話を学んでいます。校内活動は、手話講習以外にも歌詞に手話を付けた手話ソングや手話の単語・指文字を使ったゲームなどを活動に取り入れ、手話に親しみを持ち楽しみながら活動できる工夫をして活動しています。また、ろう学校等の聴覚障がい児・者との交流を通して、聴覚障がいをはじめとした様々な障がいについての知識や理解を深め、自身が学んだことを活動に活かしています。

現在は校内での活動がほとんどですが、これから少しずつ活動の範囲を広げ、様々な人に手話の良さや面白さを知ってもらいたいと考えています。



校内活動 手話講習



他大学との交流会



「シリーズ 多摩の魅力発見!」 第1回

他

多摩地域には、「知る人ぞ知る」というようなたくさんの魅力が隠れています。

今回のシリーズでは、特産品などの製造所や加工所、また映画やドラマのロケ地など多摩地域に拠点があり、多摩地域の魅力を発信している地域資源に注目し、地域とのつながりや取り組みなどを取材し紹介します。

本誌を通じて多摩地域の魅力を知って楽しんでいただきたいと思います。

「シリーズ 多摩の魅力発見!」は、機関誌「多摩のかけはし」及び自治調査会ホームページで不定期に発表していきます。

大多摩ハム

(福生市)

株式会社大多摩ハム小林商会は昭和7年に小林榮次氏によって創業され、昨年、創業80周年を迎えました。JR青梅線福生駅東口から徒歩3分の場所に、本社と工場、直営のレストラン、直売店があります。今回は三代目代表取締役社長の小林和人氏に、製品の特長や地域との連携、多摩地域への思いなどについてお話を伺いました。

東京特産のTOKYO-X豚のロースハム・ベーコン・ウインナー・あらびきウインナーと、東京うこっけいのハムは「東京都地域特産品」に認証され、TOKYO-X豚のロースハムと東京うこっけいハムは類似品からブランドを守るため商標



取締役社長 小林和人さん

登録しています。製品がオフィシャルな認証を受けているほか、製品を学校やスーパー、デパートなどに幅広く提供していることが大多摩ハムの強みといえます。また、直営

のレストラン「シュトゥーベン・オータマ」では、特製のハムやソーセージを使ったドイツ料理や、福生名物の福生ドッグなどが楽しめます。

大多摩ハムは、環境に対する取り組みや地域との連携も積極的に行っています。環境に対する取り組みでは、工場の重油ボイラーを、電熱供給システムと簡易ボイラーに変更し、年間114トンの二酸化炭素排出量の削減効果が見込まれることが評価され、農林水産省の「食品産業CO₂



ドイツのローテンブルク調のシュトゥーベン・オータマ

削減大賞優良賞」を受賞しました。

地域との連携では、東京家政学院大学(町田市)と連携して、新製品の開発に取り組み、学生にとっては、ビジネスの最先端の活動を肌で感じ取る絶好の機会となり、

大多摩ハムにとっては、ユーザーであり「食」に強い関心を持つ学生の感覚を商品開発に生かせるなど、双方にとって多くの利点のある刺激の多い活動となったとのこと。

最後に、小林社長に多摩地域に対する思いを伺うと、「西多摩地域は自然環境だけではなく、都市部もあるなど健全な多様性を持ち、和と洋、旧と新が混在してとてもバランスが取れた地域である。行政区域の壁を取り払って、西多摩地域一体となって事業に取り組んでいきたい。今後も全国展開というより、多摩に根差したローカルな多様性を持って事業を行い、多摩の魅力を発信することを心がけていきたい」と力強く語っていただきました。

株式会社 大多摩ハム小林商会

☎ 042-551-1321

HP <http://www.otama.co.jp/>

野崎酒造

(あきる野市)



ご当主 野崎三永さん

あきる野市戸倉で明治17年から129年間、代々にわたって続く蔵元を営んでいらっしゃるの5代目当主の野崎三永さん。

この蔵で造られる

「喜正(きしょう)」という日本酒の酒名は初代当主の野崎喜三郎氏の「喜」をとり命名されたそうです。「喜正」の仕込み水は、蔵正面の戸倉城山より湧く、伏流水を使用しています。この水は古くから戸倉の人々の生活水として用いられ、現在でも大切に維持管理されていて、水質はやや軟水で酒の品質を劣化させる「鉄」「マンガン」が非常に少なく、酒造りに大変適した水とのこと。

代々酒造りをしてきた酒蔵に入ると日本酒のとていい香りが漂っています。この香りを感じるとなぜだか優しい気持ちになります。当主の柔和なお人柄も、この香りから来るものなのでしょう。この酒蔵の中では、槽(ふね)を使用して酒をしぼったり、機械に頼らず仕込める大きさのタンクを使用するなど、昔ながらの、手造りにこだわった酒造りを行っています。必然的に生産量は多くありませんが、それは、当主の日本酒に対するこだわりの現れでもあります。また、通常は、公開していない酒蔵を、地元の戸倉小学校などの生徒たちには社会科見学として受け入れたり、酒問屋に卸すことはせず、地元の酒屋に直接卸すなど、地域で愛されるものを造りたいという思いを感じます。

当主の野崎さんに今後の想いを伺うと、今後も「喜正」は地域の地酒でありたいという地元への想いと、地元の

飲食店で「喜正」を飲んだ他地域のお客さんにおいしいと思ってもらうことで、地域の振興に寄与できればと考えているところがあるそうです。地域に根ざした当主の想いが伝わってきました。



野崎酒造株式会社

☎ 042-596-0123

HP <http://www.kisho-sake.jp/>

槽(ふね)

磯沼ミルクファーム (八王子市)



代表の磯沼正徳さん

八王子市・小比企町に約400年続く農家。先代が60年前に拓いた牧場を、地域に密着した牧場にしたと情熱を語ってくれたのは、代表の磯沼正徳さん。多摩地域のお祭りやイベントに招かれれば牛を連れて行き、

触れ合いの場を提供したり、毎週日曜日の乳搾り体験や教師の研修として酪農体験の場を設けるといったアイデアを次々と考案、「街のなかに牧場があること」のすばらしさを伝えていきたい、「市民参加型の牧場」にしていきたいと考えています。そのために工夫していることの一つは、牛の寝床にコーヒーやカカオの殻を混ぜること。牧場につきものの「におい」対策として効果があるだけでなく、堆肥としても成分が優秀で、近隣市の農家や農協などからも注文がくるそうです。「人間が摂取するものの残り物だから、牛にもいいものははず」という、磯沼さんの狙いがピタリとはまった形です。

また、牛のストレスをなくそうと敷地内の竹やぶを切り開き、牛を放し飼いにしています。「家畜福祉」という考えを実践し、健康なよい環境を整えることでおいしい牛乳を生産しています。そんな環境で育てられている牛たちは、好きな時に飼料を食べ水を飲み、好きなところへ移動します。柵のそばに人間が立っても怖がらずむしろ近づいてくるほど。人懐っこい目でこちらを見ているのが印象的でした。

生産した牛乳は、多摩地域の工場に出荷されるほか、牧場内にある工場ではヨーグルトなどの乳製品に変わります。

特に、プレミアムヨーグルトには1頭の牛から搾られた乳だけを使用しており、ビンのふたにはその「かあさん牛」の名前が書かれています。世界でも珍しい、「世界で一番小さなヨーグルト工場」ならではのスペシャルヨーグルトです。

磯沼さんに今後の夢について伺うと、「現在は3種類(ホルスタイン種、ジャージー種、ブラウンスイス種)の牛を飼育しているが、5種類には手が届きそう。ゆくゆくは7種類にまで増やしたいと考えています」それぞれの種の特徴を生かした乳製品を作ることが何よりの楽しみとのこと。ちなみに、国内では熊本県で5種類の牛が飼育されているそうで、7種類となれば国内初となります。

「人口密集地のように緑が少ないところは、人も住みにくい。住宅地のなかに畑や牧場がある『モザイク状』のまちづくりを目指すことは、震災などの大規模災害時にも有効な避難場所となる」という考えのもと、都市にある牧場の未来を見据え、地域の交流の場となるべく活動を広げていく磯沼さんの静かな自信が伝わってきました。



生後1日の赤ちゃん牛

磯沼ミルクファーム

☎ 042-637-6086

HP <http://isonuma-farm.com/>

多摩をつなぐ

「公」から「個」で引き継ぐ
復興支援ボランティア



「武蔵野まごころ連」紹介文には、「東日本大震災が起こった2011年の春夏に 武蔵野市民社会福祉協議会が企画した被災地支援に行ったメンバーのなかで、『続けよう、伝えたい、忘れまい』という想いを持った有志がおこした、災害ボランティアの集いです。これからもメンバーの特技や趣味を活かしながら、ずっと被災地を支えていきたいと考えています。」と記されている。世代や性別を超えて明るい人達が集まり、「楽しくなければボランティアじゃないをモットーに活動します。」とポジティブなボランティア集団。発足当初は15名ぐらいだったのが、現在では30名程度にメンバーも増えてきた。およその構成比は、学生が1/3、社会人が1/3、シニアが1/3。学生・社会人は、時間的にも余裕がないが、シニアは退職している人達なので、時間もあり(お金も)、一番活動している。

初代表久保田厚史さんは亜細亜大の学生、就職活動のために、昨年12月の1周年記念懇親会時に、代表をバトンタッチした。バトンを受けた新代表は藤本枝里さん、同じく亜細亜大の学生。久保田さんは、ボランティア支援したお宅に、機会があればなるべく訪問するようにしている。「いつもボランティアで大船渡に来る度に家を訪ねてくれることが家族全員、とても嬉しいんです」、「気にかけてもらっていることが一番ありがたいんです」と温かなコミュニケーションができています。その家の犬ともすっかり仲良くなり、訪ねていくと、犬の大歓迎をうける。大船渡までの交通費・滞在費など、個人負担なので、1回で1万5千円から2万円ぐらいの出費になる。学生にとって、気軽に行けない。赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」の助成事業に認定されたこともあり、学生には「交通費半額補助」が出来るようになった。



藤本枝里新代表



福島県南相馬市の仮設住宅前の
植え込みに花を植える

活動は、被災者と一緒
に仮設住宅の周りにお花を
植える「花咲かプロジェクト」、放射線の影響でなかなか遊べない子どもたちと遠足へ行く「移動保育」、武蔵野市に避難してきた避

共

武蔵野市の友好都市である岩手県遠野市が「遠野まごころネット」を立ち上げ、東日本大震災による沿岸部の被災地(岩手県大槌町・釜石市・大船渡市・陸前高田市)へ、ボランティア活動等による支援に。武蔵野市民社会福祉協議会でも参加者を募り、岩手県大船渡市での支援活動を実施してきた。ボランティア派遣は7回で終了し、その参加者が集まり、「武蔵野まごころ連」を立ち上げた。

「武蔵野まごころ連」(武蔵野市)

難者のつながりづくりをめざす「ふれあい交流会」などに広がっている。

福島出身者がメンバーに加わり、福島へのボランティアをするようになった。「花咲かプロジェクト」で、岩手県では種を直播きしていた。だが福島へは「プランターを持って行き、そこに土をいれて種を蒔く」ようにしている。福島では除染する場合もあるので、直播きはできない。大船渡よりは近いので「行ける」確率は高くなる。



12月に行われた定例会の様子

福島の果樹園では、品質が良く放射線の影響がなくても、風評被害で売上が激減している。残った果物はJAが買い上げるが、価格が極端に低く設定され、収入は落ちる。

陸前高田市のボランティアセンターは、12月末で閉鎖、対象地域で残っているのは、遠野まごころネットだけとなった。ボランティアを受け入れるにしても、市内に限定したりして、全国からのボランティアの受け入れを制限する動きがみられる。理由は、がれき処理等、今までの典型的なボランティア対象が無くなったため。膨大な量のがれきは、別の場所に移され、処理が始まった。被災地で「見られる光景」としてのがれきは減った。今までは、災害のマイナス面を、減らすボランティア。これからは、生活をサポートしたり、都会と被災地を結んで、新たに産業を生み出し、被災地の活性化に役立つなど、新しい形のボランティアが求められている。

武蔵野まごころ連は、昨年12月18日都庁第一本庁舎で、東京都社会福祉大会表彰「東日本大震災被災者(地)支援活動特別感謝」を授賞した。

(取材:週刊きちじょうじ)



東京都社会福祉大会にて(表彰式)

武蔵野まごころ連

(代表:藤本枝里 ☎ 090-1810-2473)

武蔵野市吉祥寺北町1-9-1 武蔵野市民社会福祉協議会気付
ブログ<http://ameblo.jp/musa-mago/>

第16回 多摩の歴史講座 終了報告

共



毎回、充実した講座でした。

「多摩のかけはし 8月号 No.109」で募集した「第16回 多摩の歴史講座」(東京市町村自治調査会多摩交流センター・たましん地域文化財団共催)、今年度は「八州廻りとアウトロー」をテーマに9月26日から11月21日にかけて隔週水曜日の全5回を国分寺労政会館他で開催いたしました。応募者150名のうち抽選で、46歳から88歳までの120名の受講生の皆様にご参加いただきました。

第1講「八州廻りの誕生と村々」では、関東取締出役の設置の背景と当時の囚人の扱いについて、また、関東取締出役の総入れ替えとなった事件の紹介がありました。第2講「武装する集団と八州廻り」では、幕末期の多摩地域における武装集団や尊攘派浪士の取り締まり、当時組織された農兵との関係について、第3講「嘉永水滸伝のアウトローたち—関東における博徒の展開—」では、嘉永2年の博徒騒乱、取締り側との癒着や腐敗の進行による幕府支配体制の限界について講義がありました。第4講「史料に見るアウトローたち—藤屋の万吉、小金井小次郎など—」では、府中市郷土の森博物館を訪れ、慶応水滸伝の芝居の一場面からの小金井小次郎、新門辰五郎の錦絵や、遠島になるときに地元の顔役に宛てた小次郎の達筆な書状等の史料を拝見しながら解説を受けました。また、



史料「錦絵」を見ながらの講義



常設展示「府中宿」の解説

常設展示では、府中宿のジオラマを見ながら宿場の様子を解説いただきました。第5講「博徒小川の幸蔵とその時代」では、小川村(現小平市)を縄張りにする小山幸蔵を題材とし、博徒とはどういうものであったのかの講義があり、幕末から明治初期までの動きが紐解かれました。

講談や映画・芝居の世界からの情報でしかなかったアウトローの実態を史料に基づき解説され、受講生の皆さんは、どの講座も新鮮で興味深く聴講できたようです。

今回の歴史講座でご講義いただきました講師の方々、参加されました受講生の皆さまに厚くお礼申し上げます。

多摩交流センターでは、今後も、期待にそえるような各種事業を企画したいと思いますのでご期待ください。

TAMA市民塾・日曜講座

共

講座名

第93回

『世界一の言語：日本語』

～意外性は多々あれど多彩で繊細な表現・発音の美しさは世界一～

講師

梅林 義雄氏(元NHKアナウンサー)

日時

平成25年4月21日(日)
午後2時～4時

場所

多摩交流センター
第2会議室

(参加希望者は当日会場へお越しください)

お忘れにならない
よう手続きを
お済ませ下さい。

会

会議室利用団体登録の更新及び
ロッカー・棚の利用手続きについて

会議室利用登録更新及びロッカー・
棚の場所替えの時期がやってきました。該当団体には通知しますので、
手続きの方よろしくお願ひ致します。

t a m a e v e n t i n f o r m a t i o n
T A M A イベント情報

助

平成25年2月・3月の助成等事業紹介

アンサンブルJ合唱団
第6回 定期演奏会

活動支援
事業

- 日時** 2月10日(日)午後2時開演
(午後1時開場)
- 場所** オリンパスホール八王子
(JR八王子駅南口 サザンスカイタワー4階)
- 内容** ヴェルディ生誕200年の記念の年に、兼ねてから
念願だった「レクイエム」を演奏します。S 藤谷佳
奈枝、A 清水華澄、T 与儀巧、B 佐久間伸一、
実力派のソリストの歌声は必聴です!!
平均年齢が60代とは思えない若々しい合唱は普
段ののびのびとした発声練習の賜物です。第1部
には「日本民謡・古謡」を演奏します。是非お聴き
ください!
- 入場料** 1,000円(全席自由)
未就学児の入場はご遠慮ください
- 主催** アンサンブルJ合唱団
- 問合せ** ☎ 042-637-7529(君島)



声楽研究会第57回公演
歌劇『魔笛』

後援
事業

(ピアノと合奏による字幕付き言語上演)

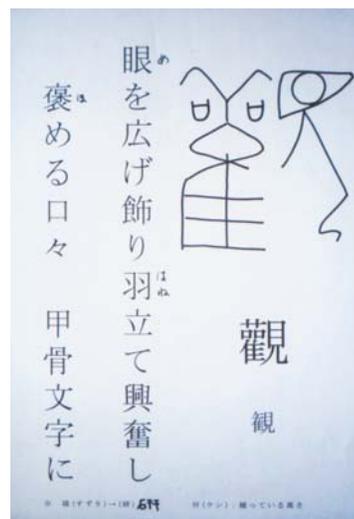
- 日時** 3月3日(日) 午後5時30分開演(午後5時開場)
- 場所** 府中の森芸術劇場 ウィーンホール
(京王線東府中駅 徒歩7分)
- 内容** 王子タミーノは、迷い込んだ異郷の地で、そこを
治める夜の女王から、邪悪なザラストロに連れ去
られた娘パミーナ姫の救出を頼まれる。渡された
のは剣でも槍でもなく、1本の魔法の笛。その音
色は調和をもたらせ、奇跡を起こすのだという。
モーツァルト最後のオペラ『魔笛』の楽しくも不思議な物語が始まります。
- 入場料・参加費** 1,500円
- 主催** 声楽研究会
- 問合せ** ☎ 090-1207-0044(升水)
- Eメール** tanu-tanu@ezweb.ne.jp
- ホームページ** <http://homepage3.nifty.com/opera/>



針金人間もいる
漢字のルーツ展

活動支援
事業

- 日時** 府中市:3月20日(水・祝)~24日(日)(21日休み)
午前10時~午後5時
但し、20日は12時から、24日は午後4時30分まで
羽村市:3月28日(木)~31日(日)
午前10時~午後5時
但し、28日は12時から、31日は午後4時30分まで
- 場所** 府中市美術館(京王線東府中駅徒歩17分又は
バス「武蔵小金井駅行」(一本木経由)
「天神町二丁目」又は「一本木」下車)
羽村市生涯学習センター「ゆとろぎ」
(JR青梅線羽村駅東口徒歩8分)
- 内容** 数名の書道家・愛好家が揮毫された楷書の見慣
れた一字と、この象形文字を示し、形から生ずる
古き最初の意味を判り易くお伝えし、漢字に関する
興味有る資料も展示します。
- 入場料** 無料
- 主催** 判り易い漢字PR委員会
- 問合せ** ☎/FAX 042-554-8483(きよた)



インターネット放送による

多摩発・遠隔生涯学習講座

共

主催：NPO法人全国生涯学習ネットワーク・公益財団法人東京市町村自治調査会

2月・3月予定の講座案内

108回

日時 2月14日(木) 午後2時30分から約1時間
題名 水問題の常識・非常識
講師 河村 明氏(首都大学東京教授)
内容 20世紀は石油争奪が原因で戦争が勃発しましたが、21世紀は水争奪が原因で戦争が発生すると言われています。世界各地での深刻な水不足、そして河川や湖沼の酷い水質悪化、さらに世界各地で頻発する洪水など、地球の水問題は、特に1970年代以降、地球全体の環境問題として重大な課題となってきています。本講演では、地球全体、世界、日本、そして都市で発生している水問題について、その常識・非常識をやさしく解説し、水問題の真実に迫ります。

109回

日時 3月14日(木) 午後2時30分から約1時間
題名 壊れたおもちゃを修理する～おもちゃ病院の活動
講師 谷 正志氏(日本おもちゃ病院協会元理事)
内容 「おもちゃ」は修理しながら使うように作られていません。この壊れたおもちゃに少し手をかけて元に戻すことが出来れば、子供たちは喜んでくれるに違いありません。目の前で修理することで動く仕組みの勉強にもなります。おもちゃのリサイクル、児童館の行事である福祉、メーカーの品質向上などと、おもちゃの修理には様々な捉え方があります。このように「おもちゃ病院」の活動には、いろいろな考え方が出来ると思います。

講座場所：多摩交流センター 第2会議室 サテライト会場 武蔵野市かたらいの道
 先着30名までです。予約はできません。

受講料等：無料(但し資料代100円)

ライブ中継・VOD視聴：無料(<http://www.tsgn.dyndns.org/tsgn/>)
 初回から視聴可 インターネットでVOD視聴(無料)できます。

問い合わせ：☎ 080-3427-9848(高原)、☎ 0422-52-0908(菅原)



特定非営利活動法人 **東京**

雑学大学

講義案内

(※会員受講料無料・会員外は2月14日と3月14日を除き、1回につき500円)

他

番号	日時	講義テーマ	教授	教場
第873回	2月 3日(日) 午後2時から	地球を救うバイオプラスチック	國眼 孝雄氏 (東京農工大学名誉教授)	西東京市民会館 (西武新宿線田無駅北口 西へ徒歩7分)
第874回	2月14日(木) 午後2時30分から	水問題の常識・非常識	河村 明氏 (首都大学東京教授)	遠隔視聴(サテライト)会場 ※ 武蔵野市かたらいの道 (JR三鷹駅北口 北へ徒歩3分)
第875回	2月21日(木) 午後2時から	自伝のディスクール	土橋 寿氏 (日本自分史学会会長、元帝京学園短期大学教授)	田無公民館 (西武新宿線田無駅南口 徒歩3分)
第876回	2月28日(木) 午後2時から	忠臣蔵の真相 ～浅野内匠頭の最期	吉田 豊氏 (江戸文化研究者)	西東京市民会館 (西武新宿線田無駅北口 西へ徒歩7分)
第877回	3月 3日(日) 午後2時から	人の世に熟あれ 人間(じんかん)に光あれ ～西光万吉と水平社宣言に学ぶ	川村 善二郎氏 (元東京経済大学・東京学芸大学講師)	西東京市民会館 (西武新宿線田無駅北口 西へ徒歩7分)
第878回	3月14日(木) 午後2時30分から	壊れたおもちゃを修理する ～おもちゃ病院の活動	谷 正志氏 (日本おもちゃ病院協会 元理事)	遠隔視聴(サテライト)会場 ※ 武蔵野市かたらいの道 (JR三鷹駅北口 北へ徒歩3分)
第879回	3月21日(木) 午後2時から	二宮尊徳の報徳仕法	大貫 章氏 (報徳博物館 評議員)	西東京市民会館 (西武新宿線田無駅北口 西へ徒歩7分)
第880回	3月28日(木) 午後2時から	織田信長の戦略	芝辻 俊六氏 (日本大学大学院講師)	西東京市民会館 (西武新宿線田無駅北口 西へ徒歩7分)

☆申込みは必要ありません。直接会場にお越しください。
 [詳細問合せ先] ☎ 042-465-3741(浅田) ☎ 0422-52-0908(菅原)

多摩交流センター登録団体の会員募集案内

会

多摩交流センターの会議室を利用するなどして自主的に活動している団体が、新規会員を募集しています。紹介記事をご覧になって興味を持たれた方は、ぜひ各団体にお問い合わせください。

凡例 団体名 ①活動内容 ②活動日 ③会費 ④募集人数 ⑤問合せ先

英会話サークル「英語を楽しむ」

- ①当会はTAMA市民塾の英語講座終了後、英語サークルとして発足しました。先生は現役の同時通訳をされている女性の方で、会員は60～70代が多く、英語を楽しむことをモットーとしており、指導中は笑いが絶えません。旅、芝居、音楽など多趣味の人が多くいろいろな分野の話が弾みます。授業は前半が先生による最近の英語ニュース、後半は生徒によるショートスピーチをして表現間違いの訂正をします。ぜひ一度見学にきてください。一同お待ちしております。
- ②第1・3月曜日の午前(月2回)
- ③14,000円/6ヶ月
- ④数名
- ⑤山田 ☎・FAX 042-488-3844
吉田 ☎ 042-373-3118



“源氏物語を読む”会

- ①「いずれの御時にか…」から始まる言葉は余りにも有名ですね。作者は紫式部、女性の書いた世界最古の長編小説と言われています。『源氏物語』は単なる恋物語ではありません。平安王朝の政治、文化、貴族の生活習慣等も興味深く描かれています。講師は『源氏物語』を博士課程で研究された高村絵里先生です。時代背景も含めながら分かりやすく解説しています。どうぞ見学にお出かけください。
- ②原則、第4火曜日の午前(月1回)
- ③500円/月+1,000円/年
- ④5名程度
- ⑤上田 登(うえだのぼる)
☎ 042-366-3154
E-mail uedagenji@yahoo.co.jp



日中交流学習会

- ①発音・文法を基本に初級中国語を徹底的に基礎から勉強し、中国の歴史・文化に触れ、少人数でレベルアップを図りながら学習します。中国料理も研究、中国旅行、研修発表会も実施して教室は厳しさの中に和やかさもありません。いつしか先生の熱心さに生徒は夢中になって勉強しています。みなさん!私達と一緒に勉強しませんか?入会希望の方、大歓迎お待ちしております。加油!
- ②第1・2・3土曜日の夜間(18:00～20:00)
- ③3,000円/月
- ④数名
- ⑤田岡静樹
☎ 042-369-5171



花のアトリエ 風花

- ①生花のアレンジを基本に、様々な資材を使ってアレンジの巾を広げています。花器にひと工夫、オーナメント、ブーケホルダーを手作りしたり、花と工作をトータルで楽しんでいます。皆様のご参加をお待ちしています。
- ②第3水曜日の午前(月1回)
- ③3,500円/月
- ④5名程度
- ⑤花岡啓子
☎・FAX 042-368-7083



編集後記

- 2013年、最初の「多摩のかけはし」になります。本年もどうぞよろしく願っています。
- 2月3日は節分です。今は家庭で「豆まき」をすることもなくなったのでしょうか。子どもの頃、もう三十年も前の話ですが、親戚の家では恒例の「豆まき大会」があって、豆に混ざってお菓子や百円玉などがまかれたものですから、子ども達みんなで必死になって取り合いをしたのを覚えています。
- 2月と言えば、バレンタインデーもあります。これまた、子どもの頃は、自慢ではないですがよくチョコレートもらったものです。今はすっかり、縁のないイベントになってしまいました。
- さて今年は、多摩地域(当時の三多摩)が神奈川県から東京都(当時の東京府)に移管されて、百二十周年に当たります。移管当時(1893年)の多摩地域の人口は二十数万人程度でしたので、現在の人口を考えると、まさに隔世の感があります。これを機に、改めて多摩地域の歴史をひも解いてみるのも面白いかもしれません。



発行日 2013年2月1日
 発行 公益財団法人 東京市町村自治調査会
 多摩交流センター
 責任者 桑原正志
 〒183-0056 府中市寿町1-5-1
 府中駅北第2庁舎6階
 TEL 042-335-0100 FAX 042-335-0127
 ホームページ <http://www.tama-100.or.jp/>
 過去1年分のバックナンバーはHPでご覧になれます。
 E-メール tama001@tama-100.or.jp
 印刷 株式会社 共同印刷所
 再生紙を使用しています。